

■ 教育目的

治療者としての認識を身につけ、向上させること。

効果な薬物的治療に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ向上させること。

〔YD-④〕

■ 学習到達目標

- ・治療者としての適切な身なり、言動をもって医療面談を行うことができる。
- ・双方向性の面談を通して、患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな情報を収集することができる。
- ・患者の立場や価値観に立って話を聴くことができる。
- ・患者の感情を感じとることができる。
- ・カルテや患者面談を通して収集した情報をもとに、患者の全体像を適切に理解し、評価することができる。
- ・理解・評価した内容をもとに、患者と共に効果的な治療プランを立てることができる。
- ・患者と薬剤師間で情報を共有することができる。
- ・医療面談の内容を適切に記録することができる。

■ 準備学習（予習・復習）

3年時に配布した演習資料を読み、演習の内容と方法を十分に把握する。

演習資料に記載されている患者情報から患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を理解する。

事前学習レポートにて予習を行う。

■ 授業内容

演習ⅠⅡとも、学生は薬剤師として1人ずつ患者のベッドサイドにて面談を行う。

各学生の演習日は演習日程表に示す1日で（この1日で演習ⅠとⅡを行う）、演習時間は13:10から課題終了までとする。

演習日程は4年生への進級審査後に掲示する。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	演習Ⅰ	①双方向性の会話を通して、患者のナラティブを理解し、医療者間の共通情報として適切に記述する。 ②患者の治療パートナーとして機能する。	A(2)-③-1 A(2)-③-4 A(3)-①-5～8 A(3)-②-2
2	演習Ⅱ	①患者の治療上の問題点を抽出し、適切な治療プランと治療的介入を行う。 ② POS に基づいて、治療経過を SOAP 形式で適切に記述する。 ③患者の治療パートナーとして機能する。	A(2)-③-1 A(2)-③-4 A(3)-①-5～8 A(3)-②-2

■ 授業分担者

すべての時間、町田いづみと白石奈緒美（非常勤講師）により行う。

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

3年時講義への出席・授業中の態度=50点（欠席毎5点減/遅刻は時間により1～5点減）、授業内の確認テスト等=30点、4年時の演習（出席は必須）=20点（事前学習と報告書の提出と内容=10点/演習への取り組み態度=10点）で総合評価を行う。3年時授業の2/3以上の出席をもって演習資格とする。

■ 参考書

事前配布資料

■ その他

模擬患者は全てプロの役者が行い、できる限り実臨床に近い状況設定で行う。